

今回はいわば「裏方通信シリーズ」の番外編ともいうべきものです。今までも、この愛知県美術館のブログの中では、「友の会のサポート部会」という言葉がちよくちよく出てきているので、今回はこの「サポート部会」について、少し説明をさせて頂こうと思います。前回ご紹介いたしました「さらしのお洗濯」などをして下さっている方々は、正式名称「愛知県美術館友の会 所蔵品管理サポート部会」という活動組織のみなさんです。

愛知県美術館では、直接ボランティアを募集することを行っていません。しかし開館の翌年に発足した「愛知県美術館友の会」という会が、当初より活動目的の一つに「美術館の支援」という項目を掲げて下さっており、友の会は今まで美術館と協議しながら様々な支援への試みをされてこられました。

2004年、当時の市川政憲館長の「美術館を理解してもらうための『協働』体験の場」という発案から、両者間および美術館内で何度も協議が重ねられ「友の会による美術館サポート活動」という試みが始まりました。この部会も、その6年前にいくつかできた部会の内の一つです。

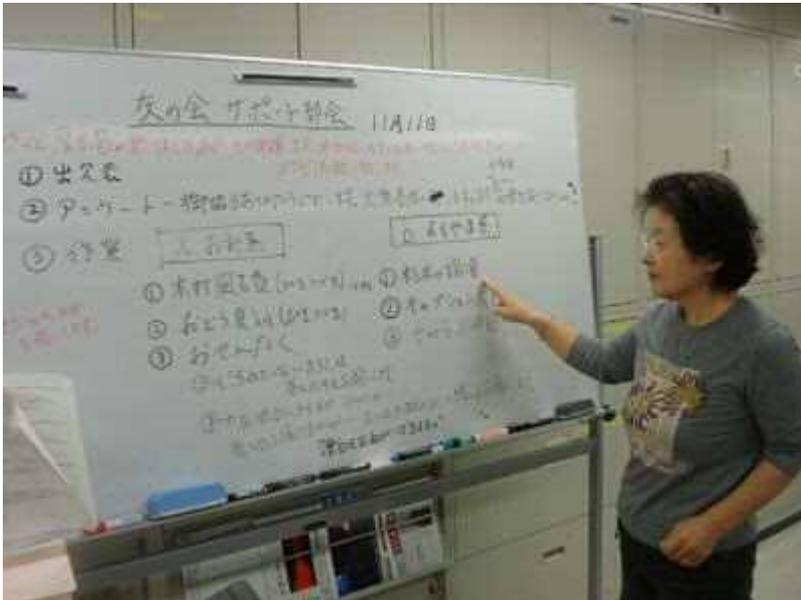
こちらへんはやはり紆余曲折があるのですが、現在の「愛知県美術館友の会」の中にある美術館支援活動組織は

- ・美術館モニター部会
- ・美術館所蔵品管理サポート部会

の二つで、いずれも大変活発に美術館のための活動を行って下さっています。

所蔵品管理サポート部会の場合、これは友の会の会員の方であれば、どなたでも、いつでも参加することができます。活動は第2第4水曜日、10時から4時の随時制。この時間帯であれば、いつ始めて、いつお帰りになられても自由です。毎回の出席も求められていません。部会のみなさんは、それぞれ御自分の生活スタイルに合わせて、毎回、半日だったり、月に1度のペースだったり、この時間帯の中で参加のスタイルをお決めになっています。美術館側の担当との合言葉は「細く長く無理をせず」（ち

なみに+「高望みせず、あきらめず」というのが、発足当時の担当の胸のうちでしたが、それはいつしか消えて無くなってしまいました)。それでも毎回、15名弱のみなさんが活動して下さいます。



一斉に活動がスタートするわけではないので、活動日の朝には、このように白板に、その日、美術館が部会のみなさんにサポートをお願いしたい作業の細々が提示されます。来られた部会員のみなさんは、その中から御自分でお仕事を選択します。お針仕事がお好きな方はお針仕事、事務的なお仕事がお得意な方は事務的な仕事。ですがやっていることは違って、同じ机でおしゃべりをしながらゆったりと作業が進められます。

この写真のお母さまは全体のまとめ役のお一人なので、誰も手をつけていない作業がないとか、もっと大勢でかかった方がいいんじゃないとか、作業の進行と白板を照らし合わせながら、全体について気を配って下さっているところです。

以下は内規にうたわれているこの部会の活動項目と、その実例のほんの一部です。

## 1、保存業務に関して生じる様々な作業

収蔵庫での収納や保存処置に使用する備品製作やその洗浄作業



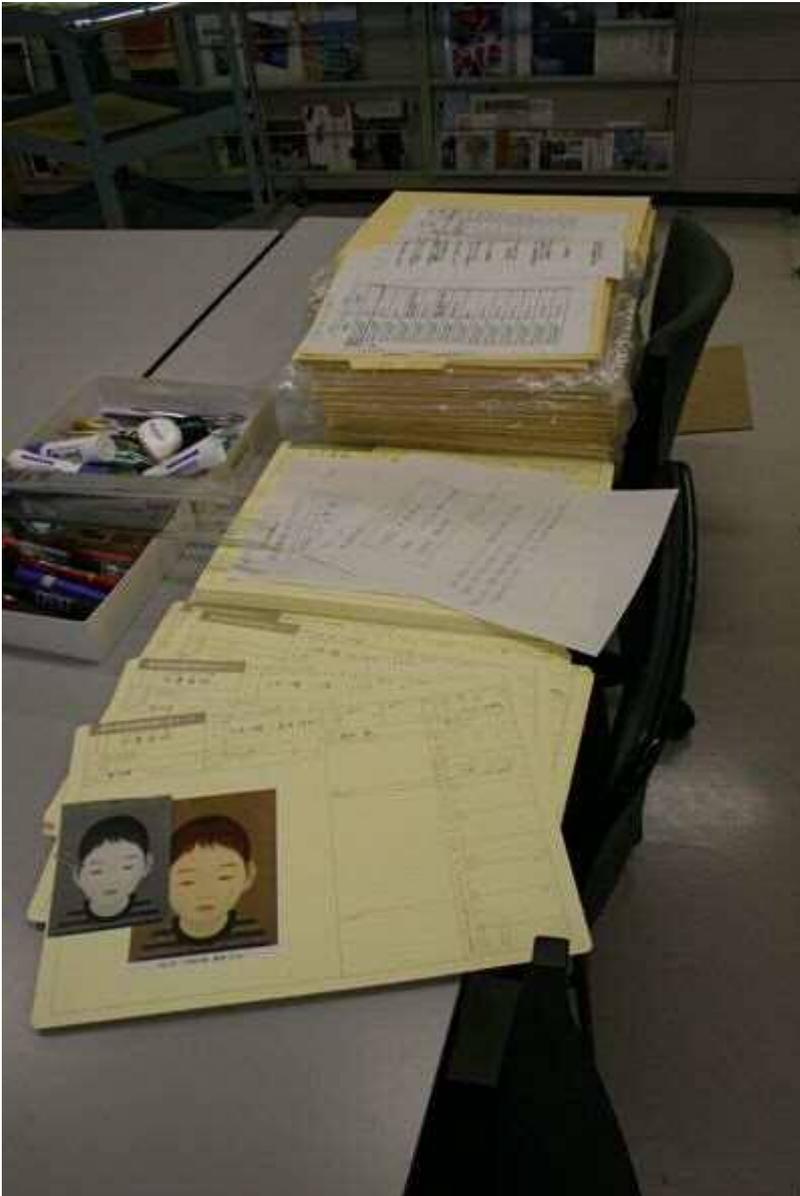
↑ミシンで備品製作



↑さらしの作業

## 2、所蔵作品の調査や管理に関して生じる様々な作業

所蔵品の管理に必要な所蔵品カード・在庫調査表、現状調書、ラベルなどの作成、書き込み



↑ 所蔵品カード

### 3、所蔵作品の活用に関して生じる様々な作業

キャプションの整理や、展示に使用される備品・道具の管理用備品の作製、その清浄化作業



↑キャプション整理



↑キャプション整理、備品の清掃



#### ↑ お道具入れ作製

このように、今では所蔵品管理に派生しがちな「地味」にして「美術館活動の根本的な部分に深く関わる諸作業」をして頂いている、裏方にとっては、なくてはならないパートナーと言っても過言ではないと思うのです。きっとこの裏方通信シリーズでは、今後も随所でこの部会のみなさんの活動の足跡をご紹介する事になることと思います。だって「裏方を巡れば、サポート部会の厚い支援にぶつかる」というのが事実なのですから。

私はこのサポート部会の皆様のことを、心密かに「美術館のパパ、美術館の母」とお呼びしております。

(N. N.)